
闇夜に消えてく君の夢

千葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇夜に消えてく君の夢

【Nコード】

N0733S

【作者名】

千葉

【あらすじ】

リアリティのかたまり

「嫌な夢を見た。」

「どんな夢？」

「伸二が死んじゃう夢。」

「そりゃ悪夢だな。」

伸二は飲みかけの缶コーヒーを自身の横に積み上げられているダンボールの山の上に置いた。

ダンボールを挟んで伸二の横に座った祐文は、膝を抱えるように座り込んだまま言葉を続ける。

「刺されたんだってさ。犯人は見つかってない。」

「うん。」

「俺はそれを新聞の片隅にちっちゃく載ってた記事で知った。」

「うん。」

祐文は一旦言葉を止めると、ジーンズのポケットに入っていた煙草の箱を取り出した。

続けてライターも取り出した祐文に、伸二は呆れた表情をする。

「吸わなきゃいけないなら話さなきゃいいのに。」

「話したいんだもん。」

「あつそ。」

煙草を啜え、ライターで火をつけた。真っ暗だった路地裏に赤い光

点が灯る。

一つ大きく息を吐いてから、祐文は言葉を再開した。

「んで、刺された伸二は重体で病院に運ばれた。」

「うん。」

「その時点で一回新聞に載って、それを見た俺は伸二が助かりますようにってひたすら祈った。」

「うん。」

「でもしばらくしたら伸二は死んじゃった。もう一回新聞に載ってそれを見た俺はただそれを拒否するしか出来なかった。」

「うん。」

「それが悲しかった。」

言葉とともに息を吐き出すと、真っ白な煙草の煙が闇夜に浮かぶ。もわもわと漂っていたそれは、しばらくすると消えた。

「起きてからもしばらく立ち直れなかった。」

「うん。」

「悪い夢ってさ、人に話すと現実にならなくなるらしいんだよ。」

「おかげで俺は命拾いしたわけだな。」

「でもほんと、リアルな夢だった。」

「ふーん。」

「目覚めてすぐは、本当に伸二が死んじゃってるんじゃないかって思ったもん。」

「ばーか。勝手に殺してんじゃないよ。」

祐文は啞えていた煙草を手にとると、コンクリートの地面に押し付けて火を消した。

暗闇に灯っていた光点が途絶えた。

「俺はちゃんと話したんだから、正夢になっても俺のこと責めないでよね。」

「安心しろ、俺強いから。」

伸二は嘲笑するように一つ笑った。

今朝方巻き込まれた事故で負った脇腹の傷のことは、黙っておくことにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0733s/>

闇夜に消えてく君の夢

2011年3月31日07時52分発行